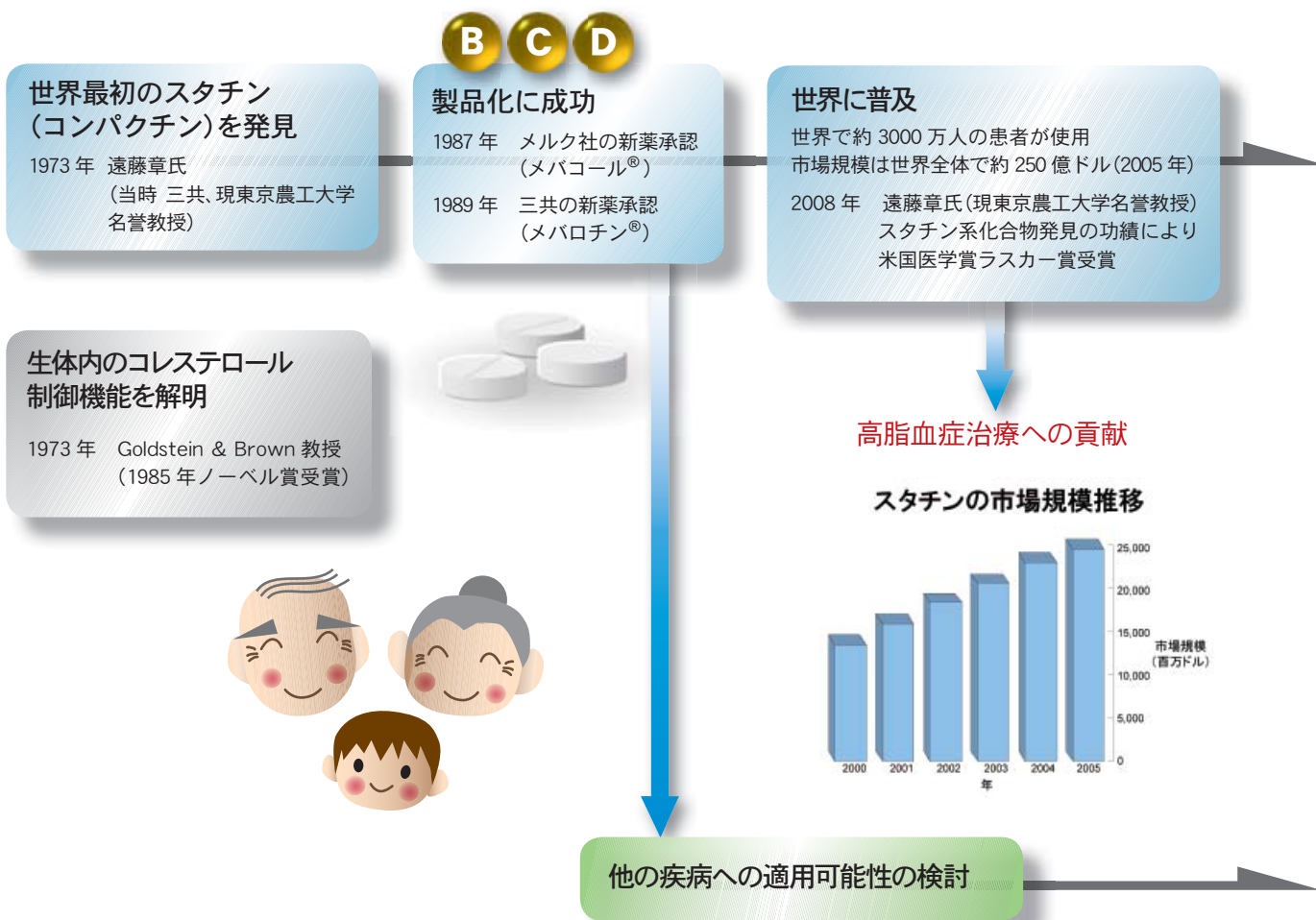


動脈硬化予防・治療法(高脂血症治療薬)

日本人のオリジナルな研究から、画期的な新薬が生まれ、世界中に普及しています。国は、日本人に特化した大規模臨床試験により、製品化と市場への普及を後押ししました。

成果とその経緯

スタチンと呼ばれる高脂血症治療薬は、遠藤章氏(当時三共)の発見に端を発し、投薬治療開始には国内の大規模臨床試験による理論的根拠の構築が貢献しました。現在では、世界的に広く服用されています。日本人の死因の第2、3位である「心筋梗塞等」や「脳梗塞等」はともに動脈硬化性疾患で、高脂血症はその危険因子であり、政府は生活改善による予防対策を進めています。スタチンは心筋梗塞の発症や脳卒中の再発を抑制するとの海外の報告があり、日本でもその検証を進めています。



主な政府の支援

研究資金の投資 **B**

- ・ 文部科学省科学研究費補助金がスタチン系化合物の研究の一助となった

臨床データの蓄積 **C**

- ・ 厚生労働省の大規模臨床試験によって、安全・効果的な治療のための臨床データが蓄積 (1994 年から 5 年間)
- ・ 日本人に特化した、理論的根拠に基づく安全な治療 EBM (Evidence Based Medicine) を確立

臨床試験による市場導入の推進 **D**

- ・ 厚生労働省の大規模臨床試験による、製品化の加速

